

[illegible]

長岡工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	地域文化論	
科目基礎情報							
科目番号	0001		科目区分	一般 / 選択			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	専攻科一般科目		対象学年	専1			
開設期	4th-Q		週時間数	4			
教科書/教材	配布資料						
担当教員	田中 聡						
到達目標							
(科目コード：A0160、英語名：Regional Culture Theories) この科目は長岡高専の教育目標の(A)と主体的に関わる。この科目の到達目標と、成績評価上の重み付け、各到達目標と長岡高専の学習・教育到達目標との関連を以下に示す。①地域文化研究の基本的な方法を理解する。 30% (A1) ②地域の歴史や文化に関する調査・分析を行うことができる。 40% (A1) ③調査・分析した結果を発表できる。 30% (A1)							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1	地域文化研究の基本的な方法を詳細に理解する。	地域文化研究の基本的な方法を理解する。	地域文化研究の基本的な方法を概ね理解する。	左記に達しない。			
評価項目2	地域の歴史や文化に関する調査・分析を詳細に行うことができる。	地域の歴史や文化に関する調査・分析を行うことができる。	地域の歴史や文化に関する調査・分析を概ね行うことができる。	左記に達しない。			
評価項目3	調査・分析した結果を詳細に発表できる。	調査・分析した結果を発表できる。	調査・分析した結果を概ね発表できる。	左記に達しない。			
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	地方創生が叫ばれる中、伝統文化の振興を通じて地域再生を試みる取組が官民間で活発に行われ、一つの潮流となっている。この科目では、こうした動向を重視し、身近な地域の歴史や文化に根差したものの見方・考え方を涵養する。 ○関連する科目：歴史学、地域産業と技術						
授業の進め方・方法	身近な地域の歴史と文化を素材としながら、地域文化研究の基本的な方法や地域に根差したものの見方・考え方を学ぶ。受講者は、自ら身近な地域の歴史や文化について調査・分析を行い、プレゼンを行う。 この授業は学修単位科目のため、事前・事後学習として、「週ごとの到達目標」欄にある課題等を事前・事後に予習・復習することが必要です。						
注意点	特になし。						
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	4thQ	9週	1. ガイダンス 2. 地域文化研究の意義と方法		地域文化研究の意義を理解する。 地域文化研究の意義と方法に関する課題		
		10週	3. 長岡市歴史関連施設の見学・調査① 4. 長岡市歴史関連施設の見学・調査②		身近な地域の歴史や文化に関する資料収集を行う。 身近な地域の歴史や文化に関する課題		
		11週	5. 地域文化研究の実践①（主に教室で班別活動） 6. 地域文化研究の実践②（主に教室で班別活動）		収集した資料の整理・分析を行う。 収集した資料の整理・分析に関する課題		
		12週	7. 地域文化研究の実践③（主に教室で班別活動） 8. 地域文化研究の実践④（主に教室で班別活動）		収集した資料の整理・分析を行う。 収集した資料の整理・分析に関する課題		
		13週	9. 中間報告会（授業担当者との面談形式） 10. 地域文化研究の実践⑤（主に教室で班別活動）		収集した資料の整理・分析を行う。 収集した資料の整理・分析に関する課題		
		14週	11. 地域文化研究の実践⑥（主に教室で班別活動） 12. 地域文化研究の実践⑦（主に教室で班別活動）		収集した資料の整理・分析を行う。 収集した資料の整理・分析に関する課題		
		15週	13. 地域文化研究のまとめ①（主に教室で班別活動） 14. 地域文化研究のまとめ②（主に教室で班別活動）		成果発表会用の資料を作成する。 成果発表会用の資料作成に関する課題		
		16週	15. 成果発表会		成果発表をとおして各自の到達レベルを振り返る。 発表資料の加筆修正に関する課題		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。		4	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。		4	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16

				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	4	後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	4	後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
				情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	4	後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	4	後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
				目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	4	後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
				あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる	4	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
				複数の情報を整理・構造化できる。	4	後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
				特性要因図、樹形図、ロジックツリーなど課題発見・現状分析のために効果的な図や表を用いることができる。	4	後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16

評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	提出物	外部評価	合計
総合評価割合	0	10	10	20	0	60	0	100
基礎的能力	0	10	10	20	0	60	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	0

長岡工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	科学哲学	
科目基礎情報							
科目番号		0002		科目区分		一般 / 必修	
授業形態		講義		単位の種別と単位数		学修単位: 2	
開設学科		専攻科一般科目		対象学年		専1	
開設期		前期		週時間数		2	
教科書/教材		教科書は使用しない/補助教材としてプリントを配布する					
担当教員		鈴木 寛					
到達目標							
(科目コード：A0010, 英語名：Philosophy of Science)（本科目は、第1学期、第2学期に週1回で実施する。）（授業計画の週は回と読替えること） この科目は長岡高専の教育目標の(A)と主体的に関わる。この科目の到達目標と、成績評価上の重み付け、各到達目標と長岡高専の学習・教育到達目標との関連を、到達目標、評価の重み、学習・教育到達目標との関連の順で次に示す。①技術者倫理の基本事項について理解する。70%(A1)、②技術者倫理の諸問題について説明できる。20%(A2)、③将来世代に対する技術者の貢献を思い描くことができる。10%(A3)。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		最低限の到達レベルの目安	
評価項目1		技術者倫理の基本事項について詳細に理解する。		技術者倫理の基本事項について理解する。		技術者倫理の基本事項について概ね理解する。	
評価項目2		技術者倫理の諸問題について詳細に説明できる。		技術者倫理の諸問題について説明できる。		技術者倫理の諸問題について概ね説明できる。	
評価項目3		将来世代に対する技術者の貢献を詳細に思い描くことができる。		将来世代に対する技術者の貢献を思い描くことができる。		将来世代に対する技術者の貢献を概ね思い描くことができる。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		科学技術と倫理、環境倫理、企業倫理、専門職倫理など、技術者倫理とそれに関連する内容の主なものを、映像資料なども用いて学ぶ。また、事例研究についての発表も課する。 ○関連する科目：哲学（前年度履修）、歴史学（前年度履修）					
授業の進め方・方法		適宜、授業内容に沿った映像資料等を用いる。また、適宜、小テストも行う。この授業は学修単位科目のため、事前・事後学習として「週ごとの到達目標」欄に示す課題などを実施する。					
注意点		様々な問題に対し想像力を働かせ、当事者意識をもって積極的に臨んでもらいたい。また、技術と倫理に関する新聞やテレビのニュースにも、日々関心をもって接してもらいたい。なお、必ず全員に事例研究についての発表を行ってもらう。行わない者は原則として単位修得不可となる。また、欠席時数が総授業時数の3分の1を超えた場合も単位修得不可となる。					
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	導入、科学技術の光と影（1）		科学技術の光と影について理解する。課題レポート。		
		2週	科学技術の光と影（2）		科学技術の光と影について理解する。課題レポート。		
		3週	基本的な倫理理論（1）		基本的な倫理理論について理解する。課題レポート。		
		4週	基本的な倫理理論（2）		基本的な倫理理論について理解する。課題レポート。		
		5週	技術者倫理とは		技術者倫理の基本について理解する。課題レポート。		
		6週	技術者倫理規程		技術者倫理規程について理解する。課題レポート。		
		7週	科学者と倫理（1）		科学者と倫理について理解する。課題レポート。		
		8週	科学者と倫理（2）		科学者と倫理について理解する。課題レポート。		
	2ndQ	9週	科学者と倫理（3）		科学者と倫理について理解する。課題レポート。		
		10週	集団の心理学		集団の心理学について理解する。課題レポート。		
		11週	企業倫理		企業倫理について理解する。課題レポート。		
		12週	技術者と法		技術者と法について理解する。課題レポート。		
		13週	発表（1）		技術者倫理に関わる事件・事故について説明できる。課題レポート。		
		14週	発表（2）		技術者倫理に関わる事件・事故について説明できる。課題レポート。		
		15週	環境倫理、ヒューマン・エラー		環境倫理、ヒューマン・エラーについて理解する。課題レポート。		
		16週	期末試験 17週：試験解説・発展授業		試験時間：60分		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
基礎的能力	工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	説明責任、製造物責任、リスクマネジメントなど、技術者の行動に関する基本的な責任事項を説明できる。		4	前5,前6,前11,前12,前13
				現代社会の具体的な諸問題を題材に、自ら専門とする工学分野に関連させ、技術者倫理観に基づいて、取るべきふさわしい行動を説明できる。		4	前5,前6,前12,前13
				技術者倫理が必要とされる社会的背景や重要性を認識している。		4	前5,前6,前12,前13

				社会における技術者の役割と責任を説明できる。	4	前5,前6,前12,前13
				環境問題の現状についての基本的な事項について把握し、科学技術が地球環境や社会に及ぼす影響を説明できる。	4	前14
				国際社会における技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。	4	前10
				技術者の社会的責任、社会規範や法令を守ること、企業内の法令順守(コンプライアンス)の重要性について説明できる。	4	前5,前6,前11,前12,前13
				全ての人々が将来にわたって安心して暮らせる持続可能な開発を実現するために、自らの専門分野から配慮すべきことが何かを説明できる。	4	前5,前14
				技術者を目指す者として、平和の構築、異文化理解の推進、自然資源の維持、災害の防止などの課題に力を合わせて取り組んでいくことの重要性を認識している。	4	前7,前8,前9,前12,前13
				科学技術が社会に与えてきた影響をもとに、技術者の役割や責任を説明できる。	4	前1,前2,前5,前7,前8,前9,前12,前13
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	法令やルールを遵守した行動をとれる。	4	前5,前15
				技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に負っている責任を挙げることができる。	4	前1,前2,前5,前7,前8,前9,前14
				企業には社会的責任があることを認識している。	4	前1,前2,前10

評価割合

	試験	発表	課題レポート	小テスト	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	40	20	30	10	0	0	100
基礎的能力	40	20	30	10	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

長岡工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	総合英語			
科目基礎情報									
科目番号		0003		科目区分		一般 / 選択			
授業形態		講義		単位の種別と単位数		学修単位: 2			
開設学科		専攻科一般科目		対象学年		専1			
開設期		1st-Q		週時間数		4			
教科書/教材		Best Practice for The TOEIC L&R Test -Intermediate- (SEIBIDO) (注意: 事前に個人で購入してもかまわないが、第1週目のガイダンス以降に履修を決めてからでも可。)							
担当教員		占部 昌蔵							
到達目標									
(科目コード: A0120 英語名: Comprehensive English) この科目は長岡高専の教育目標の (E) と主体的にかかわる。各到達目標と長岡高専の学習・教育到達目標との関連を、到達目標、教科の重み、学習・教育目標との関連の順で次に示す。① 与えられた課題について読み取りや聞き取りができ、問題を正確に解くことができる知識・技能を修得する ② 与えられた課題について聞いた音を正確に書き取ることができる知識・技能を修得する ③ 与えられた課題について聞き取った音を正確に発音することができる									
ルーブリック									
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		最低限の到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		与えられた課題について読み取りや聞き取りができ、問題を正確に解くことができる知識・技能を修得している		与えられた課題について読み取りや聞き取りができ、問題を概ね正確に解くことができる知識・技能を修得している		与えられた課題について読み取りや聞き取りができ、問題を解くことができる知識・技能を修得している		左記に達していない	
評価項目2		与えられた課題について聞いた音を正確に書き取ることができる知識・技能を修得している		与えられた課題について聞いた音を概ね正確に書き取ることができる知識・技能を修得している		与えられた課題について聞いた音を書き取ることができる知識・技能を修得している		左記に達していない	
評価項目3		与えられた課題について聞き取った音を正確に発音することができる		与えられた課題について聞き取った音を概ね正確に発音することができる		与えられた課題について聞き取った音を発音することができる		左記に達していない	
学科の到達目標項目との関係									
教育方法等									
概要		英語によるリーディングやリスニングを行う上で必要とされる知識・技能 (スキミング・ディクテーション・シャドーイング)について学習する。英語圏での日常生活、会社で使用される語彙・表現を学習する。							
授業の進め方・方法		この授業は学修単位科目のため、授業外学習として、「週ごとの到達目標」欄にある課題等を事前もしくは事後に行うことが必要です。リーディングにおいては、実践演習を通して、読解力を向上させつつ、速く読む活動を行う。リスニングにおいては、実践演習の中でディクテーション (書き取り)を行い、リスニングの基礎力を高める活動を行う。							
注意点		TOEICスコアの向上を主な目的としている。授業中及び授業外 (課題等) において、主体的な活動参加と自主学習への取り組みが求められる。TOEIC score 600 程度を履修対象としているため、上級者は他の科目 (実用英語) の履修をすすめる。1Q期末試験は、TOEIC-IP の予定。							
授業の属性・履修上の区分									
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業			
授業計画									
		週	授業内容			週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	シラバス説明 Reading ストラテジー Listening 学習方法			左記を理解する。			
		2週	Reading 文法・語法・語彙 / スピード Listening ダイアログ・モノログの特徴 Unit 1 Restaurants			左記を理解する Task unit2			
		3週	Unit 2 Review Unit 3 Business			左記を理解する Task unit4			
		4週	Unit 4 Review Unit 5 Business			左記を理解する Task unit6			
		5週	Unit 6 Review Unit 7 Business			左記を理解する Review			
		6週	1Q中間試験 Unit 8 Review			試験時間: 5 0 分 Task unit8			
		7週	Unit 9 Business Unit 10 Review			左記を理解する Task unit10			
		8週	1Q期末試験 総復習			既習事項の総復習 試験時間: 5 0 分			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標									
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週		
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。		4			
				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。		4			
				中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要となる英語専門用語を習得して適切な運用ができる。		4			
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。		4			

			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	4	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	4	
				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	4	
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	4	
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	4	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	4	
				実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	4	
			英語運用能力向上のための学習	自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取ることができる。	4	
				英語でのディスカッション(必要に応じてディベート)を想定して、教室内でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答などができる。	4	
				英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため、学生自ら準備活動や情報収集を行い、主体的な態度で行動できる。	4	
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。	4	
				関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。	4	
				関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。	4	
				関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取ることができる。	4	
				英文資料を、自分の専門分野に関する論文の英文アブストラクトや口頭発表用の資料等の作成にもつながるよう、英文テクニカルライティングにおける基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。	4	
				実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	4	
	工学基礎	グローバルゼーション・異文化多文化理解	グローバルゼーション・異文化多文化理解	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。	4	
				様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できる。	4	
				異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。	4	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	4	
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	4	
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	4	
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	4	
				円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	4	
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	4	
				他者の意見を聞き合意形成することができる。	4	
				合意形成のために会話を成立させることができる。	4	
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	4	
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	4	
				情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	4	
				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	4	
				目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	4	
				あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる。	4	
				課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	4	
				グループワーク、ワークショップ等による課題解決への論理的・合理的な思考方法としてブレインストーミングやKJ法、PCM法等の発想法、計画立案手法など任意の方法を用いることができる。	4	
				どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	4	
				適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	4	
				事実をもとに論理や考察を展開できる。	4	

				結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	4	
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	4	
				自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。	4	
				キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認識している。	4	
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でどのように活用・応用されるかを説明できる。	4	
				コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	4	
	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	公衆の健康、安全、文化、社会、環境への影響などの多様な観点から課題解決のために配慮すべきことを認識している。	4	

評価割合

	試験	小テスト	課題	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	20	20	0	0	100
基礎的能力	60	20	20	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0

長岡工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	日本語文化	
科目基礎情報							
科目番号	0004			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	専攻科一般科目			対象学年	専1		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	担当者が指示するテキスト・担当者によるプリント						
担当教員	猪平 直人,堀口 真利子						
到達目標							
(科目コード A0130 Japanese Language and Culture) 本科目は第4学期に実施する。授業計画の週は回と読み替えること。この科目は長岡高専の教育目標の（B）と主体的に関わる。この科目の到達目標と、成績評価上の重み付け、各到達目標と長岡高専の学習・教育到達目標との関連を、到達目標、評価の重み、学習・教育目標との関連の順で以下に示す。①論理的な文章作成の能力と、明快な口頭発表の能力を身につける。40%(B1)、②日本的・伝統的な思考様式に基づく古典文芸作品の基本的な読解方法を身に付ける。30%(A1)、③現代文芸作品に提示される現代社会の問題や現代特有の人間心理を理解する。30%(A1) なお、具体的に第何回目の授業を遠隔授業とするかはシラバスに明記しなくても良い。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		基礎的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
論理的な文章作成の能力と、明快な口頭発表の能力	論理的な文章を正確に書く能力と、明快でわかりやすい口頭発表の能力が身につけている。		論理的な文章を正確に書く能力と、明快でわかりやすい口頭発表の能力を概ね身につけている。		論理的な文章を書く能力と、口頭発表の基本的な能力を身につけている。		左記に達していない。
日本的・伝統的な思考様式に基づく古典文芸作品の基本的な読解	古典文学の鑑賞を通じて、日本的・伝統的な思考様式を深く理解している。		古典文学の鑑賞を通じて、日本的・伝統的な思考様式を概ね理解している。		古典文学の鑑賞を通じて、日本的・伝統的な思考様式の基本的な知識を得ている。		左記に達していない。
現代文芸作品に提示される現代社会の問題や現代特有の人間心理を理解	現代文学の内容を的確に読み取る高度な読解力・鑑賞力を身につけている		現代文学の内容を的確に読み取る標準的な読解力・鑑賞力を身につけている		現代文学の内容を読み取る基本的な読解力・鑑賞力を身につけている		左記に達していない。
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	現代文学作品の講読と、古典文学作品の講読を通じて、日本文芸全般に対する理解を深める。受講者の主体的な読解・鑑賞によって、人文学的な教養を深化させるとともに、口頭発表・レポート作成を通じて、自らの考えを明快かつ論理的に発信する力を養成する。オムニバス方式で開講（猪平7. 5回、堀口7. 5回。ガイダンスのみ2名で実施）。 ○関連する科目：国語・文学（いずれも準学士課程配当科目）						
授業の進め方・方法	受講者による口頭発表を行い、参加者でその内容について討議する演習形式を取る。取り扱う作品については開講時に指示する。発表担当学生は、事前に口頭発表用の資料を作成し、提出する。この授業は学修単位科目のため、事前・事後学習として「週ごとの到達目標」欄に示す課題などを実施する。						
注意点	使用テキストは、初回授業時に担当者が指示、もしくはプリントを配布する。作品は事前に各自通読し、必要に応じて国語辞典・古語辞典などの参考書を持参すること。						
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス・発表形式の確認と発表担当者の決定		扱う作品を指示し、発表担当者を決定する。 次回発表予定古典文芸作品の読解と考察の課題 1		
		2週	古典文芸作品演習(1)		作品の背景、作者等について基本的な事項を理解する。 次回発表予定古典文芸作品の読解と考察の課題 2		
		3週	古典文芸作品演習(2)		担当作品について、発表に基づいて討議を行い、考察を深める。 次回発表予定古典文芸作品の読解と考察の課題 3		
		4週	古典文芸作品演習(3)		担当作品について、発表に基づいて討議を行い、考察を深める。 次回発表予定古典文芸作品の読解と考察の課題 4		
		5週	古典文芸作品演習(4)		担当作品について、発表に基づいて討議を行い、考察を深める。 次回発表予定古典文芸作品の読解と考察の課題 5		
		6週	古典文芸作品演習(5)		担当作品について、発表に基づいて討議を行い、考察を深める。 次回発表予定古典文芸作品の読解と考察の課題 6		
		7週	古典文芸作品演習(6)		担当作品について、発表に基づいて討議を行い、考察を深める。 次回発表予定古典文芸作品の読解と考察の課題 7		
		8週	古典文芸作品演習(7)		担当作品について、発表に基づいて討議を行い、考察を深める。 古典文芸に関するレポート課題 1		
	4thQ	9週	近現代文芸作品演習(1)		発表担当者を決定する。作品の背景、作者について基本的な事項を理解する。次回発表予定近代文芸作品の読解と考察の課題 1		
		10週	近現代文芸作品演習(2)		作品の背景、作者について基本的な事項を理解する。 次回発表予定近代文芸作品の読解と考察の課題 2		
		11週	近現代文芸作品演習(3)		担当作品について、発表に基づいて討議を行い、考察を深める。 次回発表予定近代文芸作品の読解と考察の課題 3		

		12週	近現代文芸作品演習(4)	担当作品について、発表に基づいて討議を行い、考察を深める 次回発表予定近代文芸作品の読解と考察の課題4
		13週	近現代文芸作品演習(5)	担当作品について、発表に基づいて討議を行い、考察を深める 次回発表予定近代文芸作品の読解と考察の課題5
		14週	近現代文芸作品演習(6)	担当作品について、発表に基づいて討議を行い、考察を深める 次回発表予定近代文芸作品の読解と考察の課題6
		15週	近現代文芸作品演習(7)	担当作品について、発表に基づいて討議を行い、考察を深める 近代文芸に関するレポート課題2
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	4	後9, 後10, 後11, 後12, 後13, 後14, 後15
				論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べるができる。	4	後9, 後10, 後11, 後12, 後13, 後14, 後15
				文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べるができる。	4	後2, 後3, 後4, 後5, 後6, 後7, 後8, 後9, 後10, 後11, 後12, 後13, 後14, 後15
				常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	4	後2, 後3, 後4, 後5, 後6, 後7, 後8, 後9, 後10, 後11, 後12, 後13, 後14, 後15
				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	4	後2, 後3, 後4, 後5, 後6, 後7, 後8, 後9, 後10, 後11, 後12, 後13, 後14, 後15
				社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	4	後2, 後3, 後4, 後5, 後6, 後7, 後8, 後9, 後10, 後11, 後12, 後13, 後14, 後15
				専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	4	後2, 後3, 後4, 後5, 後6, 後7, 後8, 後9, 後10, 後11, 後12, 後13, 後14, 後15
				実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	4	後9, 後10, 後11, 後12, 後13, 後14, 後15
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	4	後2, 後3, 後4, 後5, 後6, 後7, 後8, 後9, 後10, 後11, 後12, 後13, 後14, 後15
				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	4	後2, 後3, 後4, 後5, 後6, 後7, 後8, 後9, 後10, 後11, 後12, 後13, 後14, 後15
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	4	後2, 後3, 後4, 後5, 後6, 後7, 後8, 後9, 後10, 後11, 後12, 後13, 後14, 後15

				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	4	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	4	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	4	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	4	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15

評価割合							
	レポート	発表					合計
総合評価割合	60	40	0	0	0	0	100
基礎的能力	30	20	0	0	0	0	50
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	30	20	0	0	0	0	50

長岡工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	欧米文化論	
科目基礎情報							
科目番号	0005			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	専攻科一般科目			対象学年	専1		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	初回授業時にテキストを示す。適宜、課題資料を配付する。						
担当教員	ナミタ マサルジャン						
到達目標							
(科目コード：A0150, 英語名：Western Culture) この科目は長岡高専の教育目標の(B)と主体的に関わる。 この科目の到達目標と、成績評価上の重み付け、各到達目標と長岡高専の学習・教育到達目標との関連を以下の表に示す。 ①SDGsを批判的に学ぶべき30%(B1)・(B3)・(B4) ②西洋文化についての議論についてプレゼンテーションを行う 35%(B1)・(B3)・(B4) ③欧米文化に関して分析・考察したことについて発表する35%(B1)・(B3)・(B4) 本科目は第4学期に実施する。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		最低限の到達レベルの目安		未到達レベルの目安
SDGs に関する検討	自分の視点でSDGsの作品や学際的な文脈を批判的に分析できる		SDGsの作品や学際的な文脈を批判的に分析することができる。		SDGsの作品や学際的な文脈を批判的に大まかに分析することができる。		左記に達していない。
創造都市ネットワークに関する検討	創造都市ネットワークの作品や学際的な文脈を批判的に分析できる		創造都市ネットワークの作品や学際的な文脈を批判的に分析することができる。		創造都市ネットワークの作品や学際的な文脈を批判的に大まかに分析することができる。		左記に達していない。
欧米文化に関する考察	欧米文化に関して、独自の視点から分析・考察したことについて詳細に発表することができる。		欧米文化に関して分析・考察したことについて発表することができる。		欧米文化に関して分析・考察したことについて発表することが概ねできる。		左記に達していない。
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	このコースは、SDGs、サブカルチャー、新しいメディアと相互に関連する新たな芸術的実践に関心を持つ学生を対象とし、これらの現象が都市社会の創造的発展とどのように関連するかを学ぶ。						
授業の進め方・方法	課題となる原書文献について事前に十分に内容を理解し、授業ではグループでの話し合い等により多面的な視点から文献を検討すること。議論に主体的に参加し、積極的に発言をすること。この科目は学修単位科目のため、事前・事後学習としてレポート課題などを実施します。						
注意点	特になし。						
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	概要説明 SDGsと創造都市ネットワーク」		SDGsや創造都市の知識を学ぶ。 課題: 次のクラスの重要なポイントを復習します。		
		2週	創造都市ネットワークの事例		SDGsや創造都市の知識を身につける。 課題: 次のクラスの作品を読む。		
		3週	文学を軸にした創造都市ネットワーク講読と検討		批判的な観点から、文学の事実や学際的な概念を分析する。 課題: 次の授業のための作品のディスカッション。		
		4週	文学を軸とした創造都市ネットワークの議論と検討		自分の意見を批判的に文学に発表する。 課題: 次のクラスの作品を読む。		
		5週	デザインに基づく創造都市ネットワーク講読と検討		デザインに対して批判的に意見を述べる。 課題: 次のクラスの作品を読む。		
		6週	デザインに基づく創造都市ネットワークの議論と検討		デザインの事実と学際的な概念を批判的な観点から分析する。 課題: 次の授業のための作品のディスカッション。		
		7週	工芸・民芸をテーマにした創造都市ネットワーク講読と検討		工芸や民芸品の事実や学際的な概念を批判的な観点から分析する。 課題: 次の授業のための作品のディスカッション。		
		8週	工芸・民芸を基盤とした創造都市ネットワークの議論と検討		工芸や民芸品に批判的に意見を述べる。 課題: 次のクラスの作品を読む。		
	4thQ	9週	美食学に基づく創造都市ネットワーク講読と検討		美食学の事実と学際的な概念を批判的な観点から分析する。 課題: 次の授業のための作品のディスカッション。		
		10週	美食学に基づく創造都市ネットワークの議論と検討		学生は美食学に批判的に意見を述べる 課題: 次のクラスの提案を準備する。		
		11週	創造都市ネットワークの提案準備		国際提案書の作成手順を学ぶ。 課題: 次のクラスの提案のためのアイデアを見つける。		
		12週	創造都市ネットワークの提案準備		国際提案書の作成手順を学ぶ。 課題: 次のクラスの提案のためのアイデアを見つける。		
		13週	創造都市ネットワークの提案準備		国際提案書の作成手順を学ぶ。 課題: 次のクラスの提案のためのアイデアを見つける。		

		14週	プレゼンテーション	提案を発表する。 課題: プレゼンテーションを見直し、振り返りの準備を しる。
		15週	活動の反映	授業の振り返りを行う。 課題: 復習クラスの準備をする
		16週	授業の復習	授業の振り返りを行う。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会 科学	英語	英語運用能力の基礎固め	母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	4	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16

評価割合

	ワークシート	発表	相互評価	態度			合計
総合評価割合	50	30	10	10	0	0	100
基礎的能力	50	30	10	10	0	0	100

長岡工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	地域産業と技術	
科目基礎情報							
科目番号	0006		科目区分		一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	専攻科一般科目		対象学年		専1		
開設期	前期		週時間数		2		
教科書/教材	スライド資料, プリント 等						
担当教員	田中 聡,陽田 修						
到達目標							
(科目コード: A0020 英語名: Local Industries and Technology) (授業計画の週は回と読替えること) この科目は長岡高専の教育目標の(F)と主体的に関わる。この科目の到達目標と、成績評価上の重み付け、各到達目標と長岡高専の学習・教育到達目標との関連を以下に示す。 ①新潟県内の主要産業と技術の状況を理解する。50% (F2) ②新潟県内の産業や技術について調査・分析を行い、発表する。50% (F2)							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		最低限の到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	新潟県内の主要産業と技術の状況を詳細に理解する。		新潟県内の主要産業と技術の状況を理解する。		新潟県内の主要産業と技術の状況を概ね理解する		左記に達していない。
評価項目2	新潟県内の産業や技術について詳細に調査・分析を行い、発表できる。		新潟県内の産業や技術について調査・分析を行い、発表できる。		新潟県内の産業や技術について概ね調査・分析を行い、発表できる。		左記に達していない。
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	地域の産業・経済に対する関心は、日本だけではなく世界的に高まってきている。地域経済なしに日本経済も世界経済も存在しえず、地域経済及びそれを支える地域産業と技術を調査・分析することの意義は大きい。この科目では、新潟県内の産業と技術の状況を理解するとともに、自ら調査・分析することを通して地域の産業・経済について理解を深める。この科目は、新潟県内の企業で技術管理、営業などの実務を担当していた教員がその経験を活かし、グループワークにより授業を行うものである。ワークの内容は、地域企業への取材をとおして、実務技術者及び経営者から技術管理、事業運営手法等について学ぶ実習形式の授業を行うものである。また、この科目は、2名の教員が複数教員担当方式（毎回の授業を複数の教員が同時に担当する科目）で行う。 ○ 関連する科目: 歴史学、哲学、経済学（前年度履修）、地域文化論（後期履修）						
授業の進め方・方法	地域産業と技術について、グループごとに新潟県内の企業を独自で調査・分析するとともに、企業を訪問、又はWeb会議を利用した取材を行う。調査・分析・取材の成果は、企業のPR原稿として作成し、これを発表する。この科目は学修単位科目のため、事前・事後学習としてレポート課題などを実施する。 この授業は学修単位科目のため、事前・事後学習として、「週ごとの到達目標」欄にある課題等を事前・事後に予習・復習することが必要です。						
注意点							
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス ・ 授業内容, 課題の説明 ・ チーム編成発表 ・ アイスブレイク		地域産業と技術について学ぶことの意義を理解する。企画を効率的に実施し成功するための組織とコミュニケーション手段（インフラ）を構築する。 課題：新潟県の中小企業、中堅企業の現状に関する課題		
		2週	取材・情報収集の演習 「インタビューリサーチワーク」 ・ P R 原稿作成の目的 ・ 取材、情報収集を効果的に行うための演習		取材対象者が言語化できない潜在的な想いをインタビューをとおして抽出するための手法を理解する。 課題：ワークの成果		
		3週	・ 対象企業発表 ・ 工程計画 ・ 情報収集①		時間的制約条件に対応した工程計画を立案できる。 課題：プロジェクト工程表		
		4週	・ 情報収集② ・ 対象企業との第1回打合せの計画		取材方針をチームで決定するために、適切な情報収集、論理的な議論、合意形成ができる。適切な連絡手段で学外実務者へのアポイントメントができる。 課題：対象企業の情報収集に関する課題 1		
		5週	・ 対象企業担当者との第1回打合せ ・ 取材日程の連絡・調整		学外実務者との打合せを円滑に実施できる。また、打合せ記録を作成・保存できる。 課題：打合せ議事録		
		6週	・ 取材計画の立案		取材方針をチームで決定するために、適切な情報収集、論理的な議論、合意形成ができる。 課題：企業訪問・取材実施計画書		
		7週	・ 企業訪問・取材		企業を訪問・取材し、新潟県内の産業と技術の現状と課題、独自技術を理解し、企業の強味、P R ポイントなどを収集する。 課題：企業訪問・取材実施報告書		
		8週	・ 取材に基づくコンセプトの検討 ・ レイアウト, 必要素材の検討		取材成果の整理を通して、地域産業と技術、対象企業の独自技術、強みなどについて理解し P R ポイントを整理できる。成果を基に P R 原稿を作成するために、論理的な議論、合意形成ができる。 原稿作成に関する課題1		

2ndQ	9週	- 原稿作成 - 対象企業へ必要素材の依頼、取材の補足。	取材成果の整理を通して、地域産業と技術、対象企業の独自技術、強みなどについて理解しP Rポイントを整理できる。成果を基にP R原稿を作成するために、論理的な議論、合意形成ができる。学外実務者との打合せを円滑に実施できる。また、打合せ記録を作成・保存できる。 原稿作成に関する課題2
	10週	- 原稿作成 - 対象企業へ必要素材の依頼、取材の補足。	取材成果の整理を通して、地域産業と技術、対象企業の独自技術、強みなどについて理解しP Rポイントを整理できる。成果を基にP R原稿を作成するために、論理的な議論、合意形成ができる。学外実務者との打合せを円滑に実施できる。また、打合せ記録を作成・保存できる。 原稿作成に関する課題3
	11週	- 原稿作成 - 対象企業へ必要素材の依頼、取材の補足。	取材成果の整理を通して、地域産業と技術、対象企業の独自技術、強みなどについて理解しP Rポイントを整理できる。成果を基にP R原稿を作成するために、論理的な議論、合意形成ができる。学外実務者との打合せを円滑に実施できる。また、打合せ記録を作成・保存できる。 原稿作成に関する課題4
	12週	- 原稿作成 - 対象企業へ必要素材の依頼、取材の補足。 - 対象企業へ確認・評価・修正	取材成果の整理を通して、地域産業と技術、対象企業の独自技術、強みなどについて理解しP Rポイントを整理できる。成果を基にP R原稿を作成するために、論理的な議論、合意形成ができる。学外実務者との打合せを円滑に実施できる。また、打合せ記録を作成・保存できる。 原稿作成に関する課題5
	13週	- 原稿作成 - 対象企業へ必要素材の依頼、取材の補足。 - 対象企業へ確認・評価・修正	取材成果の整理を通して、地域産業と技術、対象企業の独自技術、強みなどについて理解しP Rポイントを整理できる。成果を基にP R原稿を作成するために、論理的な議論、合意形成ができる。学外実務者との打合せを円滑に実施できる。また、打合せ記録を作成・保存できる。 原稿作成に関する課題6
	14週	- 原稿作成 - 対象企業へ必要素材の依頼、取材の補足。 - 対象企業へ確認・評価・修正	取材成果の整理を通して、地域産業と技術、対象企業の独自技術、強みなどについて理解しP Rポイントを整理できる。成果を基にP R原稿を作成するために、論理的な議論、合意形成ができる。学外実務者との打合せを円滑に実施できる。また、打合せ記録を作成・保存できる。 原稿作成に関する課題7
	15週	- 成果発表 - 相互評価	成果発表を通して、各企業の独自技術、強み、P Rポイントを理解し、地域を支える産業と技術について理解を深める。 課題：発表・報告資料に関する課題
	16週	- 成果発表 - 相互評価	成果発表を通して、各企業の独自技術、強み、P Rポイントを理解し、地域を支える産業と技術について理解を深める。 課題：発表・報告資料に関する課題

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	現代社会の考察	4	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	他者の意見を聞き合意形成することができる。	4
				合意形成のために会話を成立させることができる。	4
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	4
				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	4
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	4
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	4
				情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	4
				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	4
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	4
				周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	4
				自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。	4
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを認識できる。	4

評価割合

	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	提出物	合計
総合評価割合	0	40	40	0	0	20	100
基礎的能力	0	40	40	0	0	0	80

專門的能力	0	0	0	0	0	20	20
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0